

基幹ロケット開発に係る有識者検討会

前回の議論について

令和7年5月15日

文部科学省 研究開発局

(1) H3を持続的かつ段階的な開発プロセスにより高度化について

- ✓ 高度化の目指すべきところ(多様な打上げ需要への対応、国際競争力強化など)
- ✓ アップグレードの具体的な内容
- ✓ 2030年代も見据えて、開発を進める必要がある事項

(2) H3ロケットの高頻度打上げについて

- ✓ 種子島からの打上げ高頻度化に向けた課題と取り得る方策
- ✓ 50号機での退役するH-IIAロケット専用射点の戦略的な取り扱い

■検討会(第1回)における主なご意見等【1/2】

- ① 宇宙はフロンティアであったが、今後は事業として成立していくこと、成長していくことが必要。事業の成立性について整理が必要。
- ② 打上げはリスクの高い事業であり、チャレンジしていることを説明していく必要。
- ③ 事業として、短期的・中期的に大事な点は、顧客にとって何が大事か、そのニーズをプロジェクトの中に盛込んでいくこと。長期的には、企業として事業を成立させていくために、事業を維持・成長していくことが重要。
- ④ 事業展開を踏まえた開発が必要あり、ブロックアップグレードと密にリンクさせ、充実した開発を進めることが重要。
- ⑤ ニーズと課題に対して、ブロックアップグレードにより、短いサイクルで色々な武器を身に付けていく方法で前進していくことは、大変大事なアプローチ。
- ⑥ オリジナリティのある部分や得意な部分に特化しながら、小回りを効かせながら、他がキャッチアップできないもので勝負することも大切。
- ⑦ 本当に勝つための手段、勝機を得るため方策を見出していくことが重要。
- ⑧ 基盤的なところに力点を置くことは重要。フロントローディングを進めながら技術を着実に立ち上げていく考え方は非常に重要。

■検討会(第1回)における主なご意見等【2/2】

- ⑨ 基幹ロケットだけの研究開発ではなく、将来に向けた基盤技術としての研究開発も重要。
- ⑩ 信頼性の向上として、長期的な展望で、有人もスコープに入れて進めることが合理的なアプローチではないか。
- ⑪ 国際競争力は重要な視点であり、コストや頻度も含め考えることが必要。
- ⑫ 打上げの高頻度化について、積み上げで考えることと、将来の目標(理想の姿)から逆算して(バックキャストで)考えること、の両者をすり合わせて行くことが必要。
- ⑬ アンカーテナンシーは、方向性を検討する上でも、国際競争力の観点からも重要。
- ⑭ 人材育成は時間のかかる長期的な課題。例えば、観測ロケット等で実際に経験する機会も有効。
- ⑮ 政策として、基幹ロケットの意義・必要性をしっかりと説明していくことが必要。
- ⑯ 非常に強い輸送システムを日本として持つことは、自律性の観点、産業競争力の観点で極めて重要。
- ⑰ 基幹ロケットとしては、イプシロンSロケットの将来についても議論が必要ではないか。

(※)会議後に頂いたご意見等も含む。

■検討を深めたい事項等(第2回)

- ① H3ロケットの目指すべき姿は何か。求める成果は何か。
- ② 開発手法、アプローチは適当か。
- ③ ブロックアップグレードにおける各ブロックの考え方は適切か。
- ④ 世界動向等を踏まえた際、スケジュール感等は適当か。
- ⑤ 将来像を見据えた際、官民の役割分担の観点は適切か。